

[第1号議案]

1-1. 2025 年度事業報告書

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業1： 一般社団法人としての運営
5. 実施事業2： 若手活性化
6. 実施事業3： 会員交流
7. 実施事業4： イベント・国際連携・学会連携
8. 実施事業5： 最強データベース講義
9. 実施事業6： データ作法（セミナー等）
10. 実施事業7： 学生企画
11. 実施事業8： 産学連携推進
12. 実施事業9： 情報システム
13. 実施事業10： 広報
14. 実施事業11： 論文誌編集
15. 実施事業12： 表彰
16. 実施事業13： ハラスメント防止・DE&I 推進

2025 年度事業報告

1. 概況

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2025年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う5年目であった。2021年度には各種規程を制定し、一般社団法人としての活動を開始した。2022年度には役員を改選し会長が交代したのに伴い、委員会構成を整理し、新しい体制で学会活動を実施した。2023年度は、より良い活動を目指して必要な制度改正、内規の整備を行い、さらなる学会発展を目指す方向性、活動について議論した。2024年度は役員改選を行い、委員会体制を刷新し、新たな活動として若手活性化、会員交流に焦点をあて事業を推進した。2025年度は、2024年度の委員会体制は維持しつつ、それぞれの活動を改善しながら、活発に推進した。これにより、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行った。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与してきた。

2. 会員数について

2021年度の定時総会までに、前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした。その後、正会員、学生会員、維持会員ともに順調に増加している。それに加えて、2021年度よりDEIMの参加者はDBSJ会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、正会員数が2022年度は822名、2023年度は895名、2024年度は944名、2025年度は1022名と会員が増加した。

2023年度定時総会で定款を改定し、正会員を第一種と第二種に分割し、従来のフルアクセス権付正会員を第一種、フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した。従来DBS研、DE研登録者はフルアクセス権付だったが、その特典を無くし、第一種正会員は年会

費を支払うこととした。ただし、DEIM参加者は翌年度の年会費を免除する。これにより、その年度の年会費を支払ったか、前年度のDEIMに参加した正会員が第一種正会員となる。2025年4月にDEIM2025参加者から第一種正会員、学生会員への登録作業を行った。2025年6月に、DEIM2025に参加せず、2025年度の年会費を支払わなかった第一種正会員69名を第二種正会員に変更した。また、学生会員でメールアドレスが不達となる会員176名の退会処理を行った。

2026年2月28日から開催されたDEIM2026では、2025年度と同様に会員価格で参加する条件として、事前に会員となることを徹底したため、参加申し込み前の入会が増加した。

名誉会員は、2024年度までに16名任命されていた。2025年度は、功労賞受賞者で既に退会されている方を探索し5名任命した。さらに2025年度功労賞受賞者2名を任命した。

維持会員は、2024年度総会後に3社入会したが、1社退会した。

以下に、2021年度から2024年度まで各年度の総会時点と2025年度末（2026年3月末）時点での会員数を示す。

会員種別	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2025年度末
正会員	484名	822名	895名	944名	1022名	1024名
第一種				419名	416名	342名
第二種				525名	606名	682名
名誉会員				15名	16名	23名
学生会員	74名	503名	750名	989名	1203名	1128名
維持会員	21社	26社	26社	24社	24社	26社

今後もDEIM参加者がDBSJ会員となることのできる特典を継続するとともに、セミナーやフォーラムの機会を通じて、会員増加に努めていく。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努めた。

3.1 2025年度 定時総会

2025年6月21日(土)に専修大学にて、ハイブリッドで開催した。

3.2 理事会および各種委員会

理事会は以下の通り、計7回開催した。

第41回はハイブリッド開催、他はオンライン開催であった。

第37回：2025年5月30日(金) 第38回：2025年8月2日(金)
第39回：2025年10月2日(木) 第40回：2025年12月3日(水)
第41回：2025年12月20日(土)* 第42回：2026年2月2日(月)
第43回：2026年3月26日(木)

維持会員が参加する評議委員会を2025年9月22日(月)にハイブリッドで開催した。

役員改選の前年度にあたるので、次期会長・役員候補者及びビジョン検討WGを12月から2月にかけて、オンラインにて5回開催し、次期会長候補、次期役員候補、新委員会体制を検討した。

その他各種委員会もすべてオンラインにて開催した。

4. 実施事業1：一般社団法人としての運営（定款第4条第1項8号）

担当：総務委員会・財務委員会

総務委員会および財務委員会は、一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に、よりよくするために継続的に改善している。

【活動概要】

4.1 会員・会費制度の継続的見直し

2023年度に改正した会員・会費制度に則った会員運営並びに会費徴収を遂行するとともに、継続的な見直しを実施している。

DBSJ 初期に活躍・貢献され、現在は退会されている方について、名誉会員として推薦するよう名誉会員の内規を改定し、5名の方を名誉会員に選任した。

DEIM 参加の正会員は翌年度第一種正会員の年会費を免除することになっている。その対応を実施しやすいように会員DBの機能を改修した。

4.2 委員会や組織の構成の継続的見直し

定款第4条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会や組織の構成を随時見直し、期中であっても柔軟に対応できるよう、必要に応じて委員会や組織の構成を変更していくための予算を計上していたが、本年度は構成変更が発生せず、

計上していた予算は使用せずに終了した。

4.3 DBSJ 主催による各種活動の支援

DBSJ 主催活動を活性化するため、DEIM 等の DBSJ 主催の各種イベントの開催における一部経費を支援する。本年度は、会員交流委員会に予算を移管し、DEIM 開催中に実施した会員交流イベントの茶菓代を支援した。

4.4 事務局業務の円滑な遂行

事務局業務を円滑に遂行するため、事務局業務の一部委託を継続している。

また、専門的な知識が必要となる課題を解決するため、必要に応じて専門家への業務委託を実施するための予算を計上していたが、本年度は専門家への業務委託は発生しなかった。

4.5 理事交代方法改善の検討

2026 年度の役員改選に向けて、2026 年 4 月に予定されている役員選挙の準備として、2025 年度中に役員候補者を確定した。役員候補者を検討する際に、継続する委員会については、元委員長をアドバイザー、副委員長として委員会に残すことで、実施事業の継続性を担保するよう考慮した。

4.6 代議員選挙・役員選挙の実施プロセス改善

候補者の推薦・確定、選挙人の確定において、手続き上の曖昧さが残っていること、情報確認不足により、選挙を開始してから、やり直すことがこれまで何度かあった。2026 年度の代議員選挙、役員選挙の手続きについては、間違いがないよう配慮したが、内規を制定するまでには至らなかった。

2 月に実施した代議員選挙で、選挙開始直後に、候補者一名の名前が間違っていることが判明し、選挙をやり直した。候補者情報の確認プロセスに課題を残した。4 月に実施する役員選挙では、候補者情報を Google ドキュメントで共同編集することで、候補者情報の編集ミスが極力発生しないようにした。

4.7 会計業務の継続的見直し

一般社団法人日本データベース学会は、2023 年度に消費税課税業者となった。さらに、2023 年 10 月からはインボイス制度、2024 年 1 月 1 日からは電子帳簿保存法が施行されたため、税理士法人による定期的な内部会計監査などを実施してきた。今年度も必要に応じて会計業務の継続的な見直しを実施しつつ、日々の会計業務を実施した。

4.8 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第4条第1項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めている。

本年度は、来年度の役員改選による新体制を見据えて、DBSJの今後の方向性の議論を継続的に行った。今後の方向性に対する課題をメールで募った後、9月のWebDB夏のワークショップ2025の折に、会場付近に会長・副会長・特命副会長ができるかぎり現地に集い、今後の活動方針に関する集中討議を実施した。これをベースに理事会において次期体制の活動方針に関する議論を重ねた。それを元に、次期会長・役員候補者及びビジョン検討WGで、次期会長、次期役員候補者、委員会体制案が検討された。

5. 実施事業2：若手活性化（定款第4条第1項8号）

担当：若手活性化委員会

本事業の目的は、本学会の未来を担う若手研究者の活動を活性化させるための機会を提供するものである。若手研究者が主体的に行う研究活動の事務的・金銭的支援や、若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動をDBSJとして実施する。

【活動概要】

(1) 若手研究者によるオーガナイズドセッションの開催支援

2025年9月に開催したWebDB夏のワークショップ等において、若手研究者によるオーガナイズドセッションを募集すると共に3件の開催支援を行った。具体的には、招待講演者招聘費用等の金銭的サポートを行うと共に、会場手配等の事務手続きを本委員会がサポートした。

WebDB2025 オーガナイズドセッション(1)

「超高速データサイエンス」

オーガナイザ：天方大地（大阪大学）

6件の招待講演。

WebDB2025 オーガナイズドセッション(2)

「偽情報対策技術」

オーガナイザ：佐々木 佑樹，北島 信哉（富士通株式会社）

一般発表3件と2件の招待講演。

WebDB2025 オーガナイズドセッション(3)

「ファッション × 情報学」

オーガナイザ： 荘司 慶行（静岡大学）

一般発表 3 件と 1 件の招待講演.

(2) 若手オーガナイズド研究イベントの研究業績(ジャーナル)化支援に関する検討

若手研究者が提案・実施する研究イベントにおける研究発表に対して、これを提案・実施した若手研究者をゲストエディタとする DBSJ 論文誌特集号の発行について、論文誌委員会と連携し検討した。2024 年度より論文誌特集号の編集・発行が可能であることを若手オーガナイザに案内したが、希望が無かったため実施は見送られた。

(3) 若手活性化事業の広報および若手の要望を抽出するための Web ページの充実化

DBSJ の Web サイトの中に既に立ち上げている、本委員会の活動を広報するための Web ページの充実化を図った。ここでは若手オーガナイズド研究イベントの実施状況や公募情報を掲載すると共に、若手が気軽に提案できるような Web サイト運営実施した。

6. 実施事業 3：会員交流（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：会員交流委員会

本事業の目的は、DB コミュニティの学生を含む若手研究者の交流を促進するための機会を提供するものである。DB コミュニティに関連する学術イベント等において、会員同士が交流出来る場を提供し、特に若手研究者同士の交流を促進することで本コミュニティの活性化に寄与することを目指す。

【活動概要】

(1) WebDB 夏のワークショップにおける交流会の開催サポート

研究発表セッション終了後に実施した 2 日間のナイトセッション（交流会）において、開催サポートを行った。

(2) DEIM オンサイト企画 BoF セッションにおけるケータリングのサポート

毎年更新される組織委員による運営を DBSJ がバックアップすることで、DEIM フォーラムにおける会員交流イベントの継続的・安定的な実施をサポートした。本件は、DEIM 内で実施するイベント企画であるためイベント委員会とも連携しながらサポー

トを行った。

(3) 会員交流促進に関する方策の継続的な検討

本学会における会員交流の促進は重要な課題である。そこで上記の活動に限らず、継続的に会員交流促進に関する方策の検討を行っている。なお、この検討は当委員会メンバー内の議論に閉じることなく、交流会の場などでも問題意識を共有することで、多くの学会会員に当事者意識を持ってもらい、今後も学会全体で検討していく。

(4) 会員促進事業の広報のための Web ページの充実化

DBSJのWebサイトの中に既に立ち上げている、本委員会の活動を広報するためのWebページの充実化を図った。ここでは会員交流イベントの実施状況などを踏まえて随時更新した。

7. 実施事業4：イベント・国際連携・学会連携（定款第4第1項1号）

担当：イベント委員会・国際連携委員会・学会連携委員会

本事業の目的は、DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントの企画、海外のDB コミュニティとの連携、および他学会との連携を図ることである。国内のDB コミュニティの活性化及び拡大化のためのイベントとしては、DEIM, SoC, WebDB 夏のワークショップを企画・運営する。国際連携では、ACM との連携(SIGMOD-J)、および日本と韓国(KJDB)、中国、タイ間のDB コミュニティとの連携を深める。学会連携ではDBSJと各学会のDB系研究会との連携を深める。

【活動概要】

(イベント)

(1) データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM)

開催日時：2026年2月28日(土)～3月2日(月) オンライン：口頭発表

3月4日(水)～3月5日(木) オンサイト

開催場所：ZoomEvents (オンライン会場)、神戸国際会議場 (オンサイト会場)

論文発表：一般：445件、技術報告：17件

スポンサー数：28社

プラチナ：4件 (昨年7件)

ゴールド：19件 (昨年15件)

シルバー：5件 (昨年2件)

参加者数： 901 名

(2) ソーシャルコンピューティングシンポジウム (SoC)

開催日時：2025 年 6 月 21 日 (土) 13:00-17:30, 6 月 22 日 (日) 10:00~12:40

開催場所：専修大学神田キャンパス 10 号館 3F 黒門ホール (ハイブリッド開催)

東京都千代田区神田神保町 3 丁目 4-4

参加登録者数：45 名

(3) WebDB 夏のワークショップ

WebDB 夏のワークショップ 2025 (情報処理学会 第 181 回 データベースとデータサイエンス研究会 (SIG-DBS)・情報処理学会 第 160 回 情報基礎とアクセス技術研究会 (SIG-IFAT)・電子情報通信学会 データ工学研究会 (DE) 合同研究会)

開催日時：2025 年 9 月 16 日 (火) 13:30~17:45

2025 年 9 月 17 日 (水) 09:15~17:30

2025 年 9 月 18 日 (木) 09:15~16:10

開催場所：アクトシティ浜松コンgresセンター

(静岡県浜松市中央区板屋町 1 1 1 - 1) 2 階 21 会議室, 22 会議室, 23 会議室

参加人数：132 名

発表件数：64 件 (DBS:42 件, IFAT:7 件, DE:15 件)

オーガナイズドセッション内の一般発表 6 件を含む

(国際連携)

(1) ACM: SIGMOD-J

SIGMOD2025 国際会議報告を実施した。

開催日時：2025 年 8 月 26 日 (火)

開催場所：オンライン (Zoom)

参加者数：42 名

VLDB2025 国際会議報告を実施した。

開催日時：2025 年 10 月 27 日 (月)

開催場所：オンライン (Zoom)

参加者数：39 名

SOSP2025 国際会議報告を実施した。

開催日時：2026 年 1 月 9 日 (金)

開催場所：オンライン (Zoom)

参加者数：23名

ACM SIGMOD 日本支部 新役員構成

- ・ 支部長： 小口 正人 (お茶の水女子大学)
- ・ 副支部長： 山口 実靖 (工学院大学)
- ・ 副支部長： 豊田 正史 (東京大学)
- ・ 副支部長： 佐々木 勇和 (大阪大学)
- ・ 副支部長： 塩川 浩昭 (筑波大学)
- ・ 会計担当幹事： 北山 大輔 (工学院大学)
- ・ 庶務幹事： 齊藤 和広 (KDDI 総合研究所)

(2) 韓国： Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop (KJDB)

開催日時：2025年12月12日(金)～14日(日)

開催場所：伊勢商工会議所 大ホール

参加者数：49名

(3) 中国

CCF-TCDB (中国计算机学会数据库专业委员会) との MOU 締結・交流会

開催日時：2025年6月21日(土) 13:00-17:30, 6月22日(日) 15:50～16:10

開催場所：専修大学神田キャンパス 10号館 3F 黒門ホール (ハイブリッド開催)

東京都千代田区神田神保町3丁目4-4

CCF-NDBC 参加 (A3 プロジェクト)

開催日時：2025年8月2日-8月4日

開催場所：中国吉林省長春

招待講演, ワークショップを実施

(4) タイ

タイの DB コミュニティとの連携について, 具体的な連携イベントを検討中である.

8. 実施事業5：最強データベース講義 (定款第4条第1項1号および7号)

担当：講義委員会

本事業の目的は, DB 関連分野の各項目について, その道の第一人者ならでの「面白く」

「わかりやすい」講義コンテンツを提供し、大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である。

【活動概要】

これまでの本事業の経験およびDBシラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施。

(1) 講義コンテンツの作成と配信

- (a) 最強データベース講義：大学院生，エンジニア，研究者を対象とした講義
- (b) 最強データベース講義ベーシック：初学者（学部生）を対象とした講義
- (c) 最強データベース教材：教員や企業での教育担当者を対象とした講義

(2) タグ付けや講義間の関係などの整備と公開

(3) 講義コンテンツのデータセット整備

【今年度の実績】

7月9日 #37 大規模言語モデルの表データ処理活用（董于洋氏）

申込者数 137 名（学生 2，一般 135）

8月7日 #38 偽情報を見抜くための自動ファクトチェック技術（北島 信哉氏）

申込者数 77 名（学生 2，一般 75）

4月15日 #39-1 推薦システム | 基礎編（奥健太先生）

申込者数 71 名（学生 4，一般 67）

4月23日 #39-2 推薦システム | 評価編（奥健太先生）

申込者数 53 名（学生 3 名，一般 50）

- connpass グループ登録者数(2025年5月8日現在)：2188 名

- Youtube チャンネル登録者数(2025年5月8日現在)：8830 名

- 講義コンテンツの検索システム開発：現在テスト実施中。2026年夏公開予定。

9. 実施事業6：データ作法(セミナー等)（j 第1項1号及び5号）

担当：セミナー委員会

本事業の目的は、セミナーを通じて、研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を熟知し、法的に問題とならないデータを利活用した研究開発の推進を支援することである。

【活動概要】

当委員会では下記のように3回のセミナーを実施した。なお、第2回 DBSJ セミナーおよび第3回 DBSJ セミナーはハイブリッド開催とした。

第1回 DBSJ セミナー

2025年10月4日(土) 13:00-17:00, オンライン

「万博の事例も！オープンデータ活用の研究と個人情報保護の最新動向」

講演1：アカデミア・企業の研究開発と個人情報保護法

柿沼太一氏(弁護士法人 STORIA 法律事務所代表パートナー弁護士)

講演2：大阪・関西万博におけるデータ利活用の取り組み

大嵩豪朗氏(公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 ICT局担当課長)

講演3：オープンデータを活用した万博を楽しむ事例紹介

坂ノ下勝幸氏(諸国・浪漫/Code for OSAKA/OpenStreetMap Foundation Japan 所属)

パネルディスカッション：

モデレーター 木俣豊(DBSJ 理事)

柿沼太一氏, 大嵩豪朗氏, 坂ノ下勝幸氏

第2回 DBSJ セミナー

2025年12月20日(土)13:00-17:00, ハイブリッド(追手門学院大学総持寺キャンパス)

「そのデータは本当に安全？生成AIと著作権最新動向」

講演1：生成AIと著作権～研究者が注意すべき問題と今後の課題～

柿沼太一氏(弁護士法人 STORIA 法律事務所代表パートナー弁護士)

講演2：生成AI時代におけるAIデータ・プラットフォームとしてのデータベース

下道高志氏(日本オラクル株式会社)

講演3：さくらのAIと国産AI共創戦略

角俊和氏(さくらインターネット株式会社)

パネルディスカッション：

モデレーター 横田治夫氏(DBSJ 会長)

柿沼太一氏, 下道高志氏, 角俊和氏, 木俣豊氏(DBSJ 理事)

第3回 DBSJ セミナー

2026年3月4日(水) 9:30-12:30, ハイブリッド(神戸国際会議場)

「研究データの公開・共有・ライセンスと法的課題」

講演1：研究データ公開の法的留意点

古川直裕氏(株式会社 ABEJA 所属 弁護士, スクラムマスター)

講演 2：NII-IDR における研究データの公開事例について

大須賀智子氏(国立情報学研究所 特任研究員)

パネルディスカッション：

モデレータ 横田治夫氏(DBSJ 会長)

古川直裕氏, 大須賀智子氏, 金京淑氏(DBSJ 理事), 平手勇宇氏(DBSJ 副会長)

10. 実施事業 7：学生企画（定款第 4 条第 1 項 3 号）

担当：企画委員会

本事業の目的は、本学会に関わる学生の成長を促すことを第一義とし、学生自身が活躍できる機会を提供するものである。学生自身が関心を寄せるトピックを中心に、学生が主体的かつ能動的にイベント等の企画ならびに運営ができるよう、DBSJ として支援する。本事業は、「実施事業 2：若手活性化」、および「実施事業 8：産学連携推進」と関係するため、これらの事業と連携し推進する。

【活動概要】

2025 年 6 月～7 月に学生企画の運営委員会を発足させ、8 月より企画の検討を開催、下記 2 件の学生企画イベント開催のサポートを実施した。

(1) DBSJ 学生企画第 16 弾（オンサイト・対面のハイブリッド形式）

- タイトル：進学？就職？研究？起業？ — 多様なキャリアから学ぶ現代の就活術 —
- 日時：2025 年 11 月 21 日（金） 18:30-19:30
- URL：https://dbsj.org/events/event_info/event_20251121/
- 開催形式：Zoom, 対面のハイブリッド形式
- 会場：〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内 一橋大学 一橋講堂 会議室 203
- 内容：企業研究者、大学教員など登壇者としておよびし、本会学生会員の方が多様なキャリアパスの実例を知っていただいた。これにより、参加者自身のキャリア選択の視野を広げ、キャリアに迷う学生が安心して相談できる場を提供した。
- オンサイトでの参加者：20 名

(2) DBSJ 学生企画第 17 弾（産学連携委員会との合同企画）

- タイトル：研究ライフをN倍ブチ上げるためにキミたちはどうしますか
- 日時：2026年3月4日（水）17:30～18:30
- URL：<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/deim2026/content/bof>
- 会場：DEIM2026 会場（神戸国際展示場）
- 内容：本会学生会員が、研究活動における悩みを共有し、その解決方法を議論し共有する場を提供することで、本会学生会員の研究活動促進への貢献、および本会学生会員間の関係性構築への貢献を目指した。研究活動でどのようにAIを使っていくのか、指導教員とのコミュニケーション、後輩学生との接し方、ワークライフバランスの保ち方など、学生会員からリアルに提示された「悩み」について、学生間で議論を行った。
- 参加人数：100を超える参加者

1 1. 実施事業 8：産学連携推進（定款第4条第1項3号）

担当：産学連携委員会

本事業の目的は、産学間、さらには産産間における技術的な情報の共有、人的な交流を促進することで、データ工学に関連する産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ、あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し、それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

【活動概要】

(1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流も図る。

・東芝デジタルソリューションズ：GridDB Enterprise Edition

→2件の利用申請があり、それぞれを承認、研究に活用いただいた。

(2) データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）

情報学研究データリポジトリ（以下 IDR）は、国立情報学研究所（NII）のデータセット共同利用研究センター（DSC）が運営する研究用データセットの共同利用事業であり、本会産学連携委員会の連携先事業である。当該事業の IDR ユーザフォーラムは、研究用データセットの提供者と利用者が意見交換をするための年次イベントであり、2025年11月26日（水）に一橋講堂にて開催され、本会も後援した。

<https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/userforum/2025.html>

IDR ユーザフォーラム 2025 での研究発表の中から、下記の発表に対し DBSJ 特別賞を授与し、DEIM2026 への招待を行った。

- ・ 込山湧士氏（東北大学）
- ・ タイトル：オンラインフリーマーケット市場への生存時間分析の応用
- ・ ポスター原稿：https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/userforum/poster/IDR-UF2025_P21.pdf

(3) 産学連携マッチング促進のための取り組み

産学連携マッチングの促進を目的として、SoC2025 にて下記のパネルディスカッションを開催した。

- 開催日：2025 年 6 月 21 日(土) 14:10-15:00
- テーマ：インターンシップのリアル：企業と大学の本音，より良い未来への対話
- 実施形態：パネルディスカッション
- パネリスト：
 - 藤原靖宏（日本電信電話株式会社）
 - 劉健全（日本電気株式会社）
 - 小口正人（お茶の水女子大学）
- モデレータ：平手勇宇（楽天グループ株式会社）

(4) DBSJ 維持会員フォローアップに関する取り組み

DBSJ 維持会員プログラム・DIEM スポンサープログラムに関する意見を、DBSJ 維持会員および DEIM2025 スポンサー企業から伺い、各プログラムに反映させるために、DBSJ 関連企業意見交換会を開催した。DEIM ランチョンセミナーの事前告知等、いただいた意見を DEIM2026 スポンサープログラムに反映させた。

- 開催日時： 2025 年 10 月 28 日（火） 17:00～21:00
- 会場： 八重洲倶楽部 貸会議室（第 7 会議室）※ハイブリッドで開催
- 参加者：
 - 15 名（オンサイト）+10 名（オンライン）
 - DBSJ 会長，DBSJ 産学連携委員会，DBSJ 総務委員会
 - DEIM 実行委員長・プログラム委員長，産学連携委員会
- アジェンダ：
 - 1. DBSJ 会長・DEIM2026 産学連携委員長からの挨拶
 - 2. DEIM2026 スポンサープログラムのご説明
 - 3. DEIM2026 スポンサープログラムに向けてのディスカッション
 - 4. DBSJ 産学連携一般に関するディスカッション

1 2. 実施事業 9 : 情報システム (定款第 4 条第 1 項 6 号)

担当：情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページなどの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。

【活動概要】

(1) Web・会員 DB の運用・維持

本会 Web ページや会員データベースシステムについて安定した運用と維持管理を実施した。また Web ページのサーバ移行やコンテンツのバックアップについて検討した。

(2) メーリングリストの移行

メールサーバの移行について実施計画を整理した。

(3) BOX の管理

本会理事会 HP の BOX 移行に伴い管理を実施した。

1 3. 実施事業 1 0 : 広報 (定款第 4 条第 1 項 2 号)

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

【活動概要】

(1) News Letter の刊行

2025 年度は以下の News Letter を発行した。News Letter は従来のメール配信だけでなく、本会の Web ページでも、Web ページの体裁に合わせた形式で写真なども付けて掲載した。

- ・ 4 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 4 月号 (Vol. 18, No. 1) 発行
(DEIM2025 開催報告, AAI2025, BigComp2025 参加報告)
- ・ 5 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 5 月号 (Vol. 18, No. 2) 発行
(日本データベース学会受賞特集号)
- ・ 6 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 6 月号 (Vol. 18, No. 3) 発行

- (ECIR2025, SDM2025, ICISSP2025, WWW2025 参加報告)
- ・ 8 月 1 日 : DBSJ Newsletter 2025 年 8 月号 (Vol. 18, No. 4) 発行
(ICWSM 2025, CVPR 2025 参加報告, NTCIR-18 開催報告)
 - ・ 10 月 1 日 : DBSJ Newsletter 2025 年 10 月号 (Vol. 18, No. 5) 発行
(ICML 2025, SPIRE 2025, IJCAI 2025 参加報告)
 - ・ 11 月 1 日 : DBSJ Newsletter 2025 年 11 月号 (Vol. 18, No. 6) 発行
(若手研究者対談企画号)
 - ・ 12 月 1 日 : DBSJ Newsletter 2025 年 12 月号 (Vol.18, No. 7) 発行
(RecSys2025, ADMA2025 参加報告)
 - ・ 2 月 1 日 : DBSJ Newsletter 2026 年 2 月号 (Vol.19, No. 1) 発行
(VLDB2025, SOSP2025 参加報告)

1 4. 実施事業 1 1 : 論文誌編集 (定款第 4 条第 1 項 2 号)

担当 : 論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

【活動概要】

日本データベース学会論文誌 (和文・英文) および論文誌「データドリブンスタディーズ」を発行した。

(1) 日本データベース学会論文誌 (和文・英文) の発行

(ア) 自由投稿論文および DEIM 2025 からの推薦論文を対象

(イ) 和文論文誌 (Vol. 24-J) の発行

和文論文誌に論文 12 編を採録した。今年度は英文誌の発行はなかった。

(2) 論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行

(ア) Vol. 4 の発行

論文 5 編を採録した。

(3) 論文賞受賞論文の選定

2024 年度に投稿された論文の中から以下の論文を論文賞に選定した。

釣谷周平, 松原靖子, 水谷雅巳, 佐藤正彦, 櫻井保志, 「時系列解析によるエンジン主軸受の摩耗予測」, 日本データベース学会データドリブンスタディーズ, Vol.3, Article No.2, 2025 年 3 月

(4) 論文誌規程を改訂し新たにレターを設けた。

15. 実施事業12：表彰（定款第4条第1項8号）

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

【活動概要】

1. dbjapanにおいて、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞に関する推薦依頼を行った。
2. 表彰委員会を立ち上げ各賞の選定を行い、DEIM 2026にて表彰式を開催した（2026年3月5日）。

今年度の受賞者は以下の通り。

功労賞	大山 敬三 氏 土田 正士 氏
若手功績賞	上田 高德 氏 王 元元 氏 豊田 真智子 氏 山本 岳洋 氏 若林 啓 氏
上林奨励賞	山田 真也 氏 新井 淳也 氏 Imrattanatrai Wiradee 氏
業績賞	株式会社リクルート

16. 実施事業13：ハラスメント防止・DE&I推進

（定款第4条第1項4号及び8号）

担当：ハラスメント防止・DE&I推進委員会

本事業の目的は、DBSJ内のダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJに関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。

昨年度まで委員会名および実施事業名に D&I (ダイバーシティ&インクルージョン) を使っていたが、最近一般によく使われるようになってきた DE&I (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン) に変更した。

【活動概要】

DEIM を中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施した。

○ ハラスメント防止委員会

DEIM 等の主催・共催・講演イベントでのハラスメント防止活動